

I. 平成22年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間：平成20年7月～平成25年3月（4年9月）

1. 概況

本市は、平成20年7月に認定を受けたが、平成20年9月以降の米国発の金融不安を契機とする世界同時不況の影響をいまだ強く受けており、市税収もまだそれ以前の状況に未だ遠い状態である（平成22年度当初予算市税収入額：787億円 対20年度比約35%減）。これらのことから、一部事業の実施延期や通行量の減少等、中心市街地活性化基本計画に影響を及ぼしている。

こうした状況にありながらも、「(仮)豊田市駅前通り北地区市街地整備事業」については、準備組合が平成22年3月25日に設立され、また、新豊田駅前（不動産事業店舗の跡地）に飲食店ビルがオープンするなど、良い影響が期待されている。

総事業70事業のうち、14事業が完了、46事業が実施中、9事業が検討中、1事業が未実施という状況である。検討中・未実施の事業についても、今後実施できると見込んでいる。

特に、「飲食店ストリート構築事業」「老舗街道づくり推進事業」「西桜町通り商業集積再生事業【調査及び計画策定】」の事業は、各事業主体が行政と協議・調整しながら着実に実施に向け進めている。

その他の事業を含め、平成20年4月に設立した豊田シティセンターマネジメント（TCM）により、基本計画掲載事業の進捗状況の把握や効果的な事業推進について定期的に情報交換や協議を進めている。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
活力とにぎわいの創出	平日の歩行者通行量	25,788人 (H19)	30,500人	25,793人 (H22)	③	③
公共交通と自動車交通が調和した交通体系の実現	鉄道駅1日乗降客数	36,477人 (H18)	45,300人	38,846人 (H21)	①	①
環境に配慮したまちづくりの実践	エコシール年間受取枚数	400,000枚 (H17)	500,000枚	1,615,022枚 (H21)	①	①

- 注) ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
 ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
 ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

①平日の歩行者通行量について

基準値及び前年数値を上回ることができたことから、長引く経済不況の影響が徐々に緩和

してきており、今後の歩行者通行量の回復が期待できると考える。合わせて「飲食店ストリート構築事業」「老舗街道づくり推進事業」「西桜町通り商業集積再生事業【調査及び計画策定】」「中心市街地共同住宅供給事業」「商業・業務機能誘致奨励事業」を着実に実施することで、厳しい状況ではあるが数値目標は達成できると考えている。

②鉄道駅1日乗降客数

基準年を上回っているものの、前年数値を下回る結果となった。しかしながら、平成22年度の状況としては、鉄道駅周辺の歩行者通行量が前年度に比べ1,019人増加していることや、鉄道事業者へのヒアリングをおこなったところ、平成22年度実績は微増傾向（対前年比）の見込みとのことなどから、次回フォローアップでは増加が見込める予定であり、今後も計画に基づき事業を推進していくことで数値目標の達成は可能と考えている。

③エコシール年間受取枚数

前回報告時点で目標を達成。

エコシールの制度が平成21年5月末をもってエコポイント（豊田市版）となった。

前回フォローアップに引き続き目標値を上回る結果となった。

各事業とも制度移行による一層の環境活動の活発化が図られていく状況となり、目標数値を上回る見込み。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

5. 今後の対策

豊田シティセンターマネジメント（TCCM）を核とした、行政と民間の協議をさらに進めることにより、数値目標の状況を踏まえ、より効果的な推進とするための見直しや統廃合、新規事業の実施など、随時必要な対応を行っていく。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

目標「活力とにぎわいの創出」

「平日の歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P51～P55 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位)
H19	25,788 (基準年値)
H20	29,157
H21	25,055
H22	25,793
H24	30,500 (目標値)

※調査方法；計測地点において実測

※調査月；各年10～11月の平日1日

※調査主体；豊田市

※調査対象；歩行者のみ平日7地点

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. (仮) 名鉄豊田市駅総合整備事業 (名古屋鉄道株)

事業完了時期	【実施中】平成24年度
事業概要	豊田市の玄関口である名鉄豊田市駅の耐震補強を推進するとともに、まちの結節点として、回遊を生み出す整備を行う。また、1階商業フロアのテナントミックスを実施し、利用者の利便性・快適性を向上させる。
事業効果又は進捗状況	平成21年度に一部区間(駅北側駐輪場部分)の耐震補強工事を実施した。しかしながら、平成22年度の耐震補強(駅中央テナント入居部分)及び平成23年度のテナントミックスの実施については、事業の延期が決まっている。

②産業文化センターリニューアル事業 (豊田市)

事業完了時期	【済】平成20年度
事業概要	産業文化センターは、地域産業・文化の中心拠点として、産業文化センター・とよた男女共同参画センター、教養文化センターの3施設が併設する施設である。今回のリニューアルにより、スロープや手すり、点字ブロック等の整備による施設のバリアフリー化を図るとともに、憩いの場としての芝生広場やウッドデッキの整備、また夜間照明等都市景観に配慮した高質な施設として整備し、利用促進を図る。
事業効果又は進捗状況	事業は計画通りに実施・完了。 リニューアル前(H19)とリニューアル後(H21)を比較すると、施設利用

	<p>者は約 6,700 人増。 歩行者通行量は前年より 161 人増となっている。</p>
<p>③. 商業・業務機能誘致奨励事業（豊田市）</p>	
事業完了時期	【実施中】平成17年度～
事業概要	商業・業務機能の集積を図るため、1,000 m ² 以上の売場面積を取得等をした事業者に対し、開業後5年間の固定資産税等に対して奨励金を交付する。
事業効果又は進捗状況	現時点で4件の実績がある。(H18:1件、H19:3件)ホテル、スポーツジム、飲食店等を誘致したことで、平成22年度の通行量が誘致前(H18年)と比較し、705人の増加となっている。 引き続き制度のPRを行い、制度活用を図る。
<p>④. 飲食店ストリート構築事業（西町商店街（協）、豊田まちづくり株）</p>	
事業完了時期	【実施中】平成21年度～
事業概要	名鉄豊田市駅西の緑陰歩道沿いにある空き店舗を活用し、飲食店及び必要業種の店舗を導入し、商業集積を図る。また、話題性のある集客イベントを実施し、来街者の増加を図る。
事業効果又は進捗状況	このエリアを中心に平成21年度から、商店街による「はしご酒（飲食店回遊）」イベントを実施し、賑わい創出を図っている。 また、平成22年10月にまちづくり会社による空き店舗活用事業で飲食店が1店舗開店した。 この地点の平成22年度の通行量は前年度比で305人増加（前年比15%増）しており、事業効果が現れてきた。 空き店舗活用については、引き続き事業促進を図る。
<p>⑤. 老舗街道づくり推進事業（一番街商店街（振）、ひまわり通り商店街（振））</p>	
事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	名鉄豊田市駅から東に約300mに位置する、南北に走る竹生線の整備に合わせ、50年以上続く老舗や専門店が多いことから、この通りを「老舗街道」と位置づけ、景観整備や「まちかど博物館」を実施する。
事業効果又は進捗状況	竹生線の電線類地中化工事に合わせ、2商店街が連携し、デザインを統一した街路灯の整備を行ったことで、通りの景観が向上した。また、商店街モニュメントの設置や、まちかど博物館の実施等により、竹生線の魅力や専門性を前面に打ち出すことで老舗街道のイメージづくりを行っている。 平成22年8月に竹生線沿線まちづくり協議会が主体となって打ち水イベントを行うなど、地域の取り組みが今後も予定されている。引き続き事業の効果が発揮されるよう、継続的・効果的な取り組みを検討していく。
<p>⑥. 中心市街地共同住宅供給事業（豊田市）</p>	
事業完了時期	【実施中】平成25年度
事業概要	中心市街地のまちなか居住促進エリアで共同住宅建設者に対する補助を行い、住宅供給を促進する。

事業効果又は進捗状況	補助実績1件。平成22年8月に着工し、平成23年8月頃完成予定。 なお、この共同住宅はすでに完売となっている。 この地点の平成22年度の通行量は前年度比で約577人増加しており、入居開始後は事業効果が期待できる。
------------	--

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

基準値及び前年数値を上回ったことから、経済不況の影響が徐々に緩和してきており、今後の通行量の回復が期待できると考える。

また、事業を延期した「(仮)名鉄豊田市駅総合整備事業」については、景気の動向などのタイミングを見計らいながら、早期事業再開できるよう働きかけをしていく。

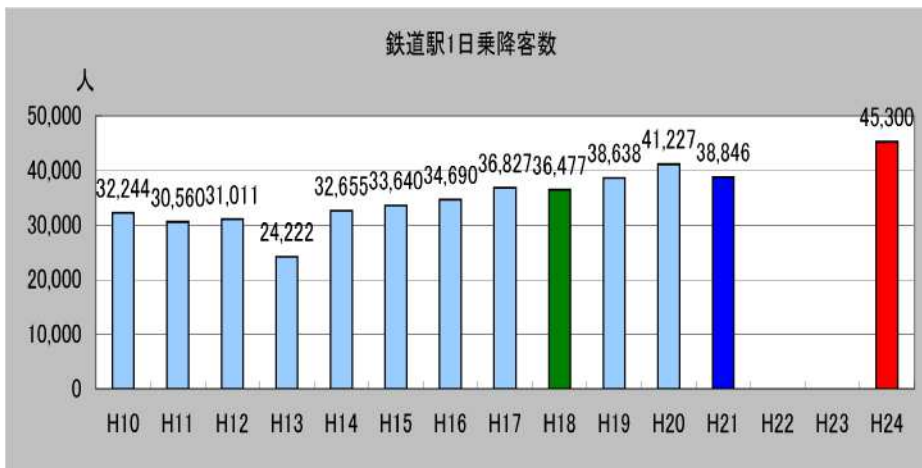
「飲食店ストリート構築事業」については、平成22年度に1店舗空き店舗活用事業を実施し、これが呼び水となり、今後も出店が増加することが期待されている。

その他「老舗街道づくり推進事業」「西桜町通り商業集積再生事業【調査及び計画策定】」「中心市街地共同住宅供給事業」「商業・業務機能誘致奨励事業」を着実に実施することで、厳しい状況ではあるが数値目標は達成できると考えている。

目標「公共交通と自動車交通が調和した交通体系の実現」

「鉄道駅1日乗降客数」※目標設定の考え方基本計画P56～P60参照

1. 調査結果の推移



年	(単位) 人
H18	36,477 (基準年値)
H19	38,638
H20	41,227
H21	38,846
H24	45,300 (目標値)

※調査月；年間1日平均乗降客数（年間数値は、翌年度6月頃に確定）

※調査主体；名古屋鉄道㈱、愛知環状鉄道

※調査対象；名古屋鉄道豊田市駅、愛知環状鉄道新豊田駅

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 飲食店ストリート構築事業（西町商店街（協）、豊田まちづくり㈱）

事業完了時期	【実施中】平成21年度～
事業概要	【再掲】P4参照

事業効果又は進捗状況	本事業の歩行者通行量増加分 305 人の 30%が鉄道利用者とし、 $305 \times 0.3 \times 2$ (乗降) = 183 人の鉄道駅利用者増加に寄与した。
②. 老舗街道づくり推進事業（一番街商店街（振）、ひまわり通り商店街（振））	
事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	【再掲】P4 参照
事業効果又は進捗状況	平成22年度の歩行者通行量増加分 100 人の 30%が鉄道利用者とするが、通行量が増加していないため、効果が発現していない
③. 産業文化センターリニューアル事業（豊田市）	
事業完了時期	【済】平成20年度
事業概要	【再掲】P3 参照
事業効果又は進捗状況	歩行者通行量増加分 295 人の 30%が鉄道利用者とし、 $161 \times 0.3 \times 2$ (乗降) = 97 人の鉄道駅利用者増加に寄与したと思われる。
④. 地域公共交通 IC カード導入事業（豊田市、民間（交通事業者））	
事業完了時期	【検討中】平成24年度
事業概要	鉄道やバスの運賃の支払いに共有して使える IC カードを導入する。
事業効果又は進捗状況	現在事業検討中である（予定通り）。名古屋鉄道(株)、名古屋市交通局、おいでんバス(コミュニティバス)などの関係機関と連携を取りながら検討を進める。
⑤. 商業・業務機能誘致奨励事業（豊田市）	
事業完了時期	【実施中】平成17年度～
事業概要	【再掲】P4 参照
事業効果又は進捗状況	平成 19 年度に誘致した 3 事業所の従業員 (3×100 人 = 300 人) の 30%が鉄道利用者とし、 $300 \times 0.3 \times 2$ (乗降) = 180 人の鉄道駅利用者増加に寄与した。
⑥. 中心市街地共同住宅供給事業（豊田市）	
事業完了時期	【実施中】平成25年度
事業概要	中心市街地のまちなか居住促進エリアで共同住宅建設者に対する補助を行い、住宅供給を促進する。
事業効果又は進捗状況	まちなか居住者増加分の 10%が鉄道利用者で見込むが、現時点で本事業の実績がないため、効果は発現していない。
⑦. フリーパーキング事業	
事業完了時期	【実施中】平成15年度～
事業概要	加盟店(店舗・施設)で買い物・利用すれば、加盟駐車場の駐車料金が 3 時間無料になる。
事業効果又は進捗状況	中心市街地内の駐車場利用者は年々増加傾向にあるが、駐車場利用者の 5%が鉄道利用へ転換すると考え、平成22 年度の駐車場利用台数 $3,701,614$ 台 $\div 365$ 日 $\times 5\%$ \times 平均乗車人員 2 人 $\times 2 \div 2,000$ 人の鉄道駅利用者増加に寄与した。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業が概ね予定どおり進捗している中で、「地域公共交通 IC カード導入事業」は鉄道事業者がICカード型電子マネーの制度開始をしており、おいでんバスなどの地域交通がそれと共用できること(平成24年度中の事業実現)により、さらなる効果の発現が期待されている。

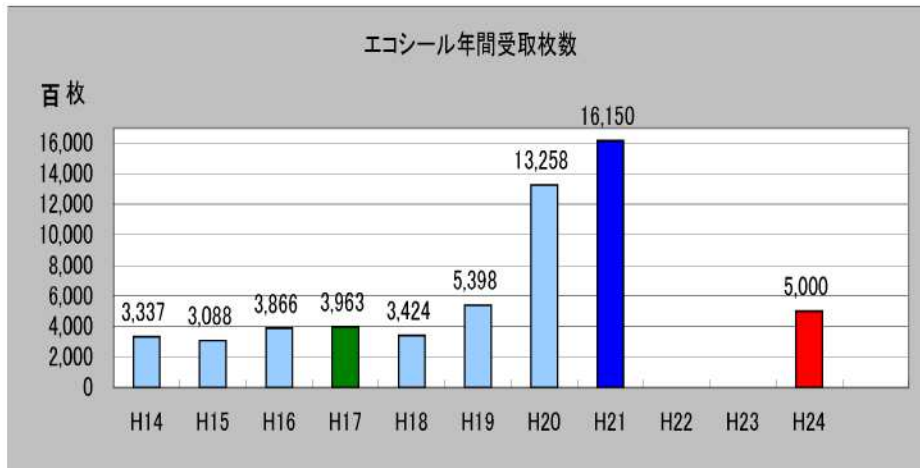
また、「中心市街地共同住宅供給事業」においては、平成23年度中に入居が開始できることなどから、今後も計画に基づき事業を推進していくことで数値目標の達成は可能と考えている。

目標「環境に配慮したまちづくりの実践」

「エコシール年間受取枚数」※目標設定の考え方基本計画 P61～P64 参照

本市の場合、マイバックを持参しての消費行動に対してエコシールが発行されるため、エコシールの受取が商業活性化に直結すると考えている。また、花飾り等の景観向上により街の魅力を高めることで、来街者や居住者を増加させ、中心市街地活性化に寄与できると考えている。

1. 調査結果の推移



年	(単位) 枚
H17	396,300 (基準年値)
H18	342,400
H19	539,800
H20	1,325,800
H21	1,615,022
H24	500,000 (目標値)

※調査月；年間受取枚数（年間数値は、翌年度6月頃に確定）

※調査主体；豊田市

※調査対象；加盟店のエコシール発行枚数から算出

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. フラワーロード事業（豊田市、民間）

事業完了時期	【実施中】平成26年度
事業概要	豊田市停車場線を始め、豊田市駅周辺を含む主要幹線道路への花飾りを実施する。花苗、用土等原材料は市が負担し、植替え・日常管理は地域が行う。
事業効果又は進捗状況	平成15年度から継続して事業を進めている。事業が継続している半面、なかなか新たな参加者は増えていない状況。 「緑化推進事業」「市駅周辺緑化推進事業」との効果的な連携を検討し、事業推進を図る。

②. (仮) 公共交通機関利用促進事業（(協)豊田市商店街連盟）

事業完了時期	【検討中】平成24年度
事業概要	公共交通利用による来街者に対し、エコポイントの付与、中心市街地での買い物に対する帰りの公共交通運賃割引などを実施する。
事業効果又は進捗状況	平成19年度の社会実験以後、検討を行っているが、ポイントの付与の基準や事業費の負担割合、商店街利用割引方法等諸課題が解決して

おらず、現時点で本格実施に至っていない。

③. 商店街エコフレンドリー事業（(協)豊田市商店街連盟）

事業完了時期	【実施中】平成19年度～
事業概要	エコバックやマイ箸の普及、店舗から出るゴミの集積場の整備を実施し、環境に配慮した商業環境を構築することで、イメージアップを図る。
事業効果又は進捗状況	「エコ商店街宣言」やエコマップの作成等環境に関わる事業を展開している。平成20年度には大型スーパーのレジ袋有料化がスタートしたことを機に市民の環境への意識が高まったことから、急激にエコシールの発行枚数(買い物袋持参者)が増加した。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

エコシール制度が平成 21 年6月より豊田市版エコポイントに移行した。そのため4・5月はエコシール受け取り枚数、6月以降は、エコシール相当分(買い物袋持参者)を換算したものとして計算している。

各事業とも制度移行による一層の環境活動の活発化が図られていく状況となり、目標数値を上回る見込み。